



- ◇一般社団法人 地域づくり支援機構 2024 年度定時総会の報告
堀越正夫(地域 P&C 第 3 期生/専務理事・事務局長)……1 頁
- ◇第 16 回 NAED 地域づくりシンポジウム
若林稔(地域 P&C 第 5 期生/理事・地域 P&C 養成塾塾長)……2 頁
- ◇第 16 回 NAED 地域づくりシンポジウム 講評 村田武一郎(理事長) ……………3 頁
- ◇活動の近況報告 中島由美子(地域 P&C 第 12 期生)……………4 頁

一般社団法人 地域づくり支援機構 2024 年度定時総会の報告

堀越 正夫(地域 P&C 第 3 期生/専務理事・事務局長)

去る 6 月 1 日(土)、今井地区公民館講堂において、「一般社団法人地域づくり支援機構 2024 年度定時総会」を開催いたしました。以下のとおり総会は成立し、議案は決議されましたのでご報告を申し上げます。

1. 総会の成立

総会は、正会員 67 名に対して、出席会員数 45 名(本人出席 12 名、委任出席 33 名)と過半数の出席により成立しました。

2. 総会議案議決について

- (1)第1号議案「2023 年度事業報告並びに収支決算承認の件」 本件は、原案どおり承認可決されました。
- (2)第2号議案「2024 年度事業計画並びに収支予算承認の件」 本件は、原案どおり承認可決されました。
- (3)第3号議案「事務所移転の件」 本件は、原案どおり、下記内容にて承認可決されました。

地域づくり支援機構の事務所を、橿原市今井町の阿伽陀屋若林亭に移転する。

- ①移転理由:事務所経費を縮減し、その縮減分によって自主事業を行えるようにしたい。
- ②移 転 先:阿伽陀屋若林亭(奈良県橿原市今井町 4 丁目 11-26)
- ③移転時期:2024 年 6 月 1 日

事務所移転により、定款第 2 条を以下のとおり変更する。

旧)第 2 条 この法人は、主たる事務所を奈良市に置く。

新)第 2 条 この法人は、主たる事務所を奈良県橿原市に置く。

※2024 年度以降の事業については、現役員はもとより、事務局が行います。事務局は、下記のメンバーとなっております。よろしくお願い致します。

事務局長兼会計:堀越正夫、事務局次長:中辻孝之助、渉外部長:大塚徹、広報担当:東千恵子
地域 P&C 塾長:若林稔、委員:神剛司、中辻孝之助、原田弘之、立松麻衣子、城者定史、山中淳史

※総会終了後、地域 P&C(第 16 期)の認証式が行われ、5 名の仲間が誕生しました。シンポジウム

では、彼らの活動報告が行われました。



写真左から、
曾根みのり氏、吉村勝雅氏、新屋奈々子氏、
安藤大観氏、スカルディノ エバン氏

第 16 回 NAED 地域づくりシンポジウム

若林稔(地域 P&C 第 5 期生／理事・地域 P&C 養成塾塾長)

第 16 回 NAED 地域づくりシンポジウムを、6 月 1 日(土)、今井町公民館で開催した。昨年から、各市町村の幹部が出席くださることが顕著になり、基調講演も竹田博康奈良県観光局長を招聘できたように、行政からも、NAED ならびに地域 P&C 養成塾の評価が高まってきた。

第 16 回地域 P&C 養成塾は、開塾直前まで塾生が集まらず、関係者を繋げてつなげて集まってくれた塾生たちであった。だから、当初は全員が揃わず、誰かが欠席をしているという状況が絶えず続いていたが、強く出席を促すことを差し控えてきた。そんな塾生たちの足並みが揃い始めたのは現地研修が連続し始めた折り返し頃からであった。なお、塾生募集という視点・意識が NAED の中で十分ではなく、限られた人だけが勧誘に走り回っている実態は改善する必要がある。

集まってくれた塾生は 7 名、しかし 2 名は途中で挫折、そして、自分の都合で塾を休むのが平気という状態の日々が前半であった。そんな塾生たちの行動にしまりが出てきたのは今井町の灯火会に向けての合宿からであった。みんなの意識が本当に固まり始めたのは、現地研修で現場を目にした頃からで、それがシンポジウム開催の団結に繋がっていった。この段階で、このチームとしての運営の根っ子は掴めたので、シンポジウムのテーマはこれできこうと心に決めて、塾長として方向性を定め誘引していった。決まったテーマは「辿り着いた地域づくりの根っ子」である。

基調講演を行ってくださったのは、竹田博康奈良県観光局長である。若い時から、土木が専門でありながら、県庁内の土木部門の有志 5～6 人で「奈良・まちづくりコンシェルジュ」としても活躍され、私とも旧知の間柄であったが、山中淳史奈良県福祉医療部長(当 P&C 養成塾委員)に仲介してもらい招聘させてもらった。

基調講演では、土木部門時代に現場の苦勞を現地の方々と分かち合っコトを起こしてきたことを強調され、その時に身体で覚えたことが今も基盤になっているということであった。そして、懇親会では塾生一人ひとりに感想を語り、懇親会後も塾生と一緒に塾まで同行され、さらに懇親を重ねてくださった。

さて、肝心の塾生たちとは言えば、朝から会場をセッティング、受付準備を済ませ、スライド調整なども終えて昼食、午後からは地域プランナー・コーディネータの認証式、その後はプログラムの進行役を務めた。

プログラムは、基調講演ののち、奈良フェニックス大学地域研究科「山添グループ」4 名が山添地区での活動を紹介し、続いて地域 P&C 養成塾生 5 名の発表へと続いた。塾生諸君について言及しておきたい。

①吉村勝雅「和太鼓で繋ぐ地域と人のえにし」

趣味の太鼓を学校教育に取り込んできた経験から、塾の現地研修「今井町並み散歩」で演奏機会を得たことで、さらなる演奏の機会を広げるチャンスとすることができた。

②曾根みのり「佐渡から奈良:ならさど〜お」

現役の大学生で入塾した彼女は、授業の大半は聞き手に回っていたが、現地研修を重ねていくにつれて、故郷の佐渡の環境との共通点を見つけ始め、積極性が出てきたうえに、三郷町での就職も決めて、急激にシンポジウム計画に参画してくれた。何よりも、故郷を複数もとうという着眼点にたどり着き、実行にまでもってきてくれたことを評価したい。

③新屋奈々子「ごまをする」

地域おこし協力隊員として宇陀市で就農していた彼女は、入塾当初は反抗的な態度があからさまに見える状態であったが、黒滝村での現地研修を機に大きな信頼関係が生まれ、もっている潜在能力がどんどん出るようになった。発表タイトルの「ごまをする」は、彼女が試みている胡麻栽培からの題材で「胡麻をする＝お世辞を言っ

て人に媚びる」をしなくても、ありのままの彼女を応援してくれる周辺農家が多くなってきたのはきっと彼女の良い人間性が出てきたのだらうと思える。

④安藤大観「新米が見た三郷」

三郷町の生まれであるが、幼稚園から高校までを屋久島で過ごし、大学時代から大阪生活、結婚を機に生まれた三郷町に居を構えるようになり、今年から三郷町役場に就職したばかりという経歴で入塾してきた。万事にそつがなく、能力的にも相当優れていたもので、しばらく観察していたが、そつがないということは殻を破れないのと同じだと感じて、折にふれてその意識をもつように仕向けていたが、気づいてくれたことであらう。

⑤スカルデイン・エバン「青い目で見た日本、外から見た地域づくり」

シカゴ大学時代に日本留学の経験があるエバンが再来日。奈良での就職を斡旋したうえで、書道と造園修行に加えて地域P&C養成塾での勉強も課した。潜在能力も高く、日本語の理解力も優れているうえに決断力も早いので、企業にとってすばらしい戦力になっていると聞いている。養成塾での1年間だけでなく卒塾後も関わってくれているのでNAEDの戦力にもなってもらう。

持ち時間10分という限られた時間での発表では、断片しか表現できなかったと思うが、塾生たちは良いものを学んで卒塾してくれたなど感じ、今後の活動を見守ってあげることができる地域P&C養成塾でありたいと心から思っている。

第16回NAED地域づくりシンポジウム 講評

村田武一郎(理事長)

今回のシンポジウムは第16回となる。こんなにも回を重ねられるとは感慨深い。そして、自治体を含め、様々な分野からご参加いただけるようになってきたことを喜んでいる。

(1)基調講演 奈良県観光局長竹田博康氏

県土整備や奈良公園の価値を維持向上するにあたって重要な役割を果たし、今後は、「ポテンシャルの高い奈良の観光地域づくりを進めていく」とのことであった。そして、奈良県の良さ、課題を率直に語っていただいた。開かれた、地域とともにある観光局を感じた。今後の奈良に期待したい。一方、県民としてもできることが多いと感じた。皆さまの積極的参画を期待したい。

(2)山添村における共働活動と今後の展開 奈良フェニックス大学地域研究科「山添グループ」

故郷を未来に残す小さな挑戦、ひろせやなぜキャンプ場の利用運営への提案、快慶作阿弥陀如来像の活用を通じた村おこし、蕎麦PJの立上げ等々、「ビジター」から「リピーター」、そこから「共働プレーヤー」へと着実に歩みを進めてこられたことに敬意を表す。「人と人、人と地域の交流を通じ持続可能なコミュニティモデルの構築に協力していく」とのこと、大いに期待したい。

(3)地域P&C養成塾生の発表

①和太鼓で繋ぐ地域と人のえにし 吉村勝雅氏

和太鼓、養成塾のことを語ってもらった。今後、「地域づくり・人づくり・今井のおもてなしの心を大切にし、和太鼓の力を借りて、縁のある人・場所で、地域を元気づけていきたい」とのこと、期待したい。

②佐渡から奈良:ならさど〜お 曾根みのり氏

「自分を成長させてくれた佐渡、天理、台湾、三郷町、今井町の5地域を故郷にし、関係人口となって、自分を成長させてくれた地域へ恩返しをしたい」とのこと、期待したい。また、参画している龍田古道景観保全プロジェクトにも期待したい。

③ごまをする 新屋奈々子氏

今年もゴマの栽培を行い、「ゴマを使った商品開発に取り組みたい」「耕作機械で畑を耕してくれたり、タダでハウスを貸してくれる人もいたり、タダで肥料をくれたりなど、たくさんの人に支えられている」とのこと、うれしいことですね。

④新米が見た三郷 安藤大観氏

三郷町は、地域の関りや繋がりが強い住みやすい町である。「町のことを知らなすぎる私に必要なのは、たくさんの人と関わり、“地域を身体で感じ”、様々な視点でその地域を見て、考え、行動することだと改めて気づくことができた」とのこと、貴重な出発点を得られた今後に期待したい。

⑤青い目で見た日本、外から見た地域づくり スカルディノ・エバン

「故郷は、“先祖のおかげで自分がいる地元”と解釈できる。米国にはない」「居場所としての故郷に憧れて日本に住んでいる。故郷はすごく尊いものだと思って、日本人には大切にしてほしい」。私たちには気づかない新しい視点を示してくれました。なるほどです。

このシンポのテーマは「辿り着いた地域づくりの根っ子」であった。今後とも、様々に「根っ子」＝「故郷・地元」のみならず、＝「人々のつながり・信頼関係・共働」が積み重なり、奈良の地域活力が増進されていくことを願いたい。このシンポジウムでは、地域づくりに関するキーワードが多く得られた。

講演・発表・参加・準備を行ってくださった皆さまに感謝いたします。

活動の近況報告

中島由美子(地域 P&C 第 12 期生)

地域 P&C 養成塾でお世話になった方々、先輩方の地域づくりの現場で出会った方々との交流が今も続いていることに感謝をこめて、近況報告いたします。

日ごろの就業先は奈良市福祉部に所属し、傍らで職能団体の(公社)奈良県栄養士会の役員として奈良県下の各地域での県民への健康改善・増進、健康寿命延伸への環境づくりや直接的な指導等を行い、一方で成年後見人としての活動も継続しています。そんな私の地域づくりの拠点は、北葛城郡河合町です。自分の住んでいる町がいろんな意味で世間から揶揄されたことが本格的な活動のきっかけになったことは、振り返ると「怒りのエネルギーは岩をも通すもの」だと実感しています。

地域 P&C 養成塾に入塾したころ、「自転車安全利用推進のまち河合町」で自転車活用推進法が施行されることを見越して始めたポタリングによるまちづくりの草の根活動が少し形になりだしたころでした。構想・計画したことは、当時のボランティア活動をされていた方々には「そんな大風呂敷広げて」と相手にされず「無理むり」と鼻であしらわれていた私でした。いつも思い起こした言葉は、その 10 年前ほど前のタウンミーティングで出会った町づくり委員の方からの「やろうと思うことをやったら良い」の言葉でした。その方とはその後の興味関心をもって参加する講座などで幾度もお会いすることになり、実はその言葉で私に勇気を授けてくださったのが、村田武一郎理事長でした。本当に導かれているという実感さえ起こり、きっと実現できるんだと前進しか知らない蜻蛉のように、立ちどまり考え視線を変え前進することを継続しています。できる工夫を考えると、見えなかった景色がきらめいて目の前に現れる。それは現実的にも必要とする縁者が現れるという感動的な連鎖でした。その連鎖で「Let's ポタリング」から始まった地域づくりは、コロナも逆手に取り、お陰様で 7 年目です。

その間、5 年以内にサイクルトレインができれば良いなと思っていたことも実現でき、構想の一つの地元の農

作物を生かした食環境づくり、自然と健康になれる環境づくりにも活動は広がり、河合町保健センターでの「男性の料理教室」を継続し、食生活習慣の改善と適切な運動の啓発活動としてポタリングイベントとスポーツ栄養講座を同時開催してきたことも功を奏したのかと思うタイミングで、河合町が奈良県下の男性健康長寿第一位になり、気運も後押ししてくれて構想・計画を前進させ、「食でつながるネットワークづくり」の旗を掲げ2025年を目途に構築する「地域包括ケアシステム」の完成期に活動は入りました。

日本栄養士会の災害時食支援スタッフ(JDA-DAT)でもある私は、そもそも河合町の地形的特徴として丘陵地帯であることから大雨や地震などの発災時、近隣の受援地域住民を助援し、一瞬にして単に町内住民だけの集落でなくなる日がやってくる、その日の備えや懐深い助援体制が必要なことが官民ともに気づいているだろうか？と疑念を持ちながら、古墳時代から幾度も先人たちが工夫したであろうことを想像し、今に活かすこと、今自分ができていることを考えて、JDA-DATの研修講師でご縁のある日本医師会のDMAT統括隊員の守川義信先生に事前相談し、災害で混乱を招く第一番の理由の行政がダウンすることの防止のために、住民向けの講演会ではあるけれど実は一番に行政関係者に向けて発信したい思いを込めたイベントを企画し、今その大詰め作業をしているところです。

8月25日に、河合町立文化会館まほろばホールで「食」を考える～ブリコラージュ～を開催します。ブリコラージュとは、その場にあるありあわせのもので必要なものを手作りすること。災害時には必要なものを手に入れることが困難になります。これを使ったらこんなものが作れるかもの工夫する力と想像力が命をつなぐ大きなポイントになります。日常から非常時をみんなで取り組むネットワークは、「食べることは生きること」の食育が大きな下支えになること、また、法令により段階的な支援の取り組みがきちんとあること、個人レベルですべきこと、また支援の受援と助援、避難所は様々な人間模様があるごった煮の場であること、健常者は避難袋にアレルギー対応食品を入れてアレルギー体質で配給物資があっても空腹で衰退する人が減らせること交換し合える優しい気持ちも避難袋に入れておくことなど、健康寿命奈良県一位である間にぜひ取り組みを広げたいと実践します。まほろばホールホワイエで段ボールベッドの体験コーナーやその他関係機関からの展示を予定しています。

河合町への揶揄がきっかけとなったまちづくり、非常時も日常とかわらない河合町を目指して、これからも楽しみながら関係人口を増やしていこうと思います。

引き続き、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。